

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3873600377
法人名	株式会社新風会
事業所名	グループホーム白雲
所在地	愛媛県大洲市白滝甲699番地4
自己評価作成日	平成28年6月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 28 年 7 月 22 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設のフロアの大きな窓からは、ゆったりと流れる肱川を眺める事ができ、周囲の自然から季節の移ろいを感じることができます。日々の介護では、利用者の皆様が楽しみ、生きがいを持てるよう日々笑顔で職員は接し、なるべく多くコミュニケーションが取れるよう努めております。年々、利用者の体調が崩れ全員での行事参加が難しくなっていますが、近隣住民を招いての白雲茶屋やクリスマス会などを開催し、交流を大事にし少しでも多く地域の方とも交流が出来るように取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然豊かな環境にある事業所は、景勝白滝公園近くの高台に位置し、眼下に清流肱川を望み、年中爽やかな風に包まれ、四季折々の風情を感じることができる。広々とした敷地に建つ洋館風の建物で、開設12年目を迎える。職員の異動が多い中、昨年は管理者の異動があり、管理者は職員とのコミュニケーションを大切に前任者の思いを継続するよう努めている。利用者の重度化も進んでいるが、職員と共に利用者がのんびりと穏やかに過ごせるよう熱心に取り組んでいる。また職員も日々の業務に追われる中、利用者一人ひとりの思いや意向を大切にケアに取り組んでいる。事業所と母体の診療所は協力体制が取れており、24時間体制で利用者の健康管理や緊急時には迅速に対応できるなど、利用者は安心してサービスを利用することができる。地域とのつながりを大切に笑顔あふれる暮らしが継続できるような事業所を目指し日々取り組んでいる。今後、さらなる発展が期待できる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム白雲

(ユニット名) 第1ユニット

記入者(管理者)

氏名 山上 真弘

評価完了日

平成28年6月22日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 会社の運営理念を基に、白雲の理念「ゆっくり、ゆったり、笑顔ある生活」を共有して、職員は介護にあたるようにしているが、業務が忙しい時にはなかなかゆっくり利用者に接する事が出来ない時がある。</p> <p>(外部評価) 法人全体の理念とは別に事業所独自の理念が事業所内に掲示されている。月1回の業務カンファレンスにて理念の共有を行い、実践できるように意識づけしている。また、どんなに多忙な時でも、常に理念に沿いサービスの質の向上に努め、利用者一人ひとりに合ったケアに組んでいる。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 5月に地域の方を招いての白雲茶屋を開催し、その時に地元ボランティアの方を招きフラダンス観賞も実施した。地方祭でのおみこしや地域の小学校から学芸会の案内状を頂き、数名の利用者と職員が参加をし交流する事も出来た。</p> <p>(外部評価) 5月に白雲茶屋を開催し、利用者家族や地域の方の参加があり、施設見学やフラダンスのボランティアを招き、大変喜ばれた。また、地域の小学生や中学生との交流の場は多く、福祉体験の受け入れやクリスマス会を一緒に行なうなど日常的な交流がある。カラオケ、フルートの演奏会、ギターの弾き語りなどのボランティアの訪問もある。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 「白雲茶屋」の茶話会で利用者や地域の方との会話を取り持っている。今回、白雲茶屋の案内状を老人会の集まりの時に配り初めて参加された方もいた。小学校の福祉学習の訪問も受け入れ交流も深めている。以前までは婦人会の方との交流があったが、婦人会が無くなり交流が減ってしまった。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議を2か月に1回開催している。構成委員の方から、 助言や意見をその都度頂き、サービス向上に繋がるよう取り組 んでいる。	
			(外部評価) 市福祉課、区長、民生委員、利用者、家族と幅広い参加者に よって運営推進会議がとり行われている。他事業所の参加が毎 回あり貴重な意見や情報を聞くことができている。昨年からス ライドショーを使って活動報告をしたところ、参加者に解かり やすいと好評を得ている。また、地区サロンへの参加の誘いが あり、現在前向きに検討している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議と3ヶ月に1回実施している大洲市グループホーム 連絡会の場で、利用者の状況を報告している。困難事例があ った場合は、市町村の担当者や地域包括の担当者に相談も 行っている。認定変更時などケアプランを提出し助言も頂いて いる。生活保護担当者の方とも定期的に連絡も行っている。	
			(外部評価) 市福祉課担当者は毎回運営推進会議に参加し、事業所の利用状 況や取組みについて報告し意見交換している。3カ月に1度行 われる市グループホーム連絡会では様々な情報交換をしてい る。また、困難事例や勉強会などの個別相談にも応じてもらえ るなど、協力関係は良好である。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 月に1回職員が講師となり勉強会を行っており、今年の12月 に勉強会を予定している。過去に身体拘束の勉強会を実施した 事はあるが、今後も職員が身体拘束の知識の情報共有が出来る よう取り組んでいきたいと考えている。玄関などの鍵は施錠し ていない。	
			(外部評価) 職員が利用者に寄り添い見守ることで、身体拘束をしないケア に取り組んでいる。身体拘束のマニュアルを作成し、ミーティ ングなどで身体拘束をしないケアについて常に話し合い、職員 は正しい理解をして実践している。言葉での拘束についても職 員全員で意識しながら適切な対応をするよう心がけている。夜 間のみ安全面に配慮し玄関の施錠をしている。勉強会を12月 に予定している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 月に1回職員が講師となり勉強会を行っており、6月に外部の研修にも職員が参加した。過去に高齢者虐待防止法について勉強会を行っているが、職員は常に虐待しないよう気をつけている。管理者は職員の精神面に注意する様に気を付けている。入浴時など利用者の体に異変がないか、また利用者が怯えるような言動がないか観察も行なっている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 1階利用者で成年後見制度を活用している方がいる。以前、会社で成年後見制度についての研修会を実施したが今年度は実施出来ていない為まだまだ職員全員が理解する事は出来ていないと思う。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居契約時に契約書、重要事項説明書をなるべく分かりやすいように説明し、その都度不安や疑問を聞き確認している。改定時も、文書と口頭で説明し了解を頂き、署名、捺印を頂いている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 玄関に意見箱の設置、なるべく家族の面会時等に意見や要望を聞くようにしている。又、日常の利用者の会話から要望がある場合には記録に残し、ケアカンファレンスで取り上げ反映できるように取り組んでいる。 (外部評価) 面会時や電話連絡を活用して、利用者や家族等の意見や要望を聞くように努めている。別に家族会を開催し正直な意見を聞くことができている。今年は11月に予定している。出された意見は、職員間で話し合い、実現できるように取り組んでいる。中でも、利用者から「買物に行きたい」との要望が多く、叶えたいところ大変喜ばれている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月に1回管理者会議があり、その時に出た意見を毎月下旬に行う業務カンファレンスで管理者が全職員へ発表し話し合いをしている。代表者は多忙でなかなか施設への訪問は難しいが、定期的に副部長や相談役が施設を訪問され職員の意見を聞いて頂いている。 (外部評価) 管理者は、共に介護に携わっていて職員と話し合う時間や場面は多く、職員は日々の支援の中で気がついたことや思いを管理者に伝えることができる環境が整っている。事業所で解決できないことは本部に報告し対応している。また、業務カンファレンスでは、勉強会や行事の反省、次行事の打ち合わせなど、職員同士での活発な意見交換のできる有意義な会議となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 処遇改善加算を導入し、管理者が1人1人の職員の査定を行なう事を実施している。その後、代表者が判断し、職員の努力や実績により昇格する仕組みとなった。産休や育児休暇等も整備されていて、再度働くことが出来る。給与の見直しや、労働時間の見直し等、会社は努力しているが、職員不足は慢性的である。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 働きながら初任者研修などを受けることが出来る。県のGH協会の研修、大洲市の研修に参加し、ケアの向上に努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 県のGH連絡会、大洲市の連絡会に参加している。大洲市の連絡会で他施設への施設訪問日を決め、他施設の見学会に職員が参加している。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) サービスの利用前に担当ケアマネジャーに連絡を取り情報を聞き、その後事前調査に伺い、本人と面接し再度悩みなど確認事項を聞き少しでも悩みが軽減出来るよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) サービスの利用前に担当ケアマネジャーに連絡を取り情報を聞き、家族から悩みなど確認事項を聞き対応している。又、できるだけ家族には、事前に施設に見学に来て頂くようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) まず、施設への入所が適切であるかどうか、担当ケアマネジャーに連絡をとり事前調査で見極めるようにしている。入所後、拘縮などがあり軽減の為、他事業所のマッサージを利用するかの呼びかけを行っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 認知症が進行している方が多くなり、精神介護、身体介護が増える中で、暮らしを共にする者同士の関係が難しくなっている。出来る事はなるべく本人が行うように呼びかけ取り組んで頂くようにしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時に日々の暮らしの状況を報告をし、要望を聞きコミュニケーションを取っている。3ヶ月に1回、担当者が生活状態、健康状態を手紙で知らせている。ケアプラン更新時にも再度説明し、要望等を話し合っている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族や親せきの方以外の方が面会に来られることは少ない。以前は地元の方が入所していた時には、地域の友人が面会に来られた事があったが、現在はあまりない状態。 (外部評価) 家族や友人の方の面会があり、部屋で会話をしている。馴染みの美容室に頼みたいとのことで、美容室に相談したところ来てもらうことができ大変喜ばれた事例もある。また、地元の敬老会へ出席したり、家族の協力を得て外出したりと、馴染みの関係が途切れないような支援に努めている。現在、地区サロンから参加の案内が届いており、前向きに検討中である。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) フロアの席の配置には、お互いが仲の良い方を集めトラブルが起らない様に気をつけている。洗濯物畳みや掃除などのお手伝いも、それぞれが分担して協力して出来るようにしているが、時折口論になる事があり注意が必要な時がある。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院された時は、お見舞いに行っている。退院後についても、相談がある時には対応している。亡くなられた時は、弔電を打って、葬儀に参加している。身近にいない家族の方に代わり施設で出来る事はなるべく行っている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 毎月のケアカンファレンスで各担当者が気づいた事や本人の話、家族さんの話などを発表し、それぞれが意見に対して再度話し合い問題把握等に努めている。困難な場合は、本人の様子や顔の表情などから検討している。 (外部評価) 職員は利用者一人ひとりに向き合いながら、日常の表情や態度から気持ちを汲み取り、思いや意向を把握するよう努めている。「俳句を作りたい」という思いを聞き、一緒に俳句をつくり壁に掲載したところ大変喜ばれた。把握が困難な利用者には表情や行動を見落とさないようにしたり、生活歴や家族から思いを聞き把握するよう努めている。また、利用者自身が自己決定できるような声かけを行うなど対応方法にも配慮している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 事前調査やアセスメント等から、職員全員が理解して共有する様になっている。家族が遠方などで本人と接する事が少ない場合には、生活歴など詳しく分からない事があるが、なるべく本人から昔の話聞き情報を得るように取り組んでいる。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 毎日勤務者の申し送りにより状態を把握している。毎日の介護の中で、だんだん出来なくなってきたことなど気づいた時には話し合い、対応方法を変えている。体調不良の場合には、かかりつけ医の病院、医療連携の看護師へ報告し、その都度指示を頂き受診などを行なっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 毎月、各担当者がモニタリングをしケアカンファレンス時に話し合いを行なっている。状態に変化がある場合は介護計画の見直しを行ない、本人と家族の要望を聞いているが、家族が積極的に計画の立案に参加する方は少ない。	
			(外部評価) 利用者や家族の思いや意向を反映した介護計画を作成している。利用者担当制を設け、職員は利用者の生活状況や身体状況を把握し、月に1回ケア会議を行い、必要に応じて計画の見直しも行っている。今年5月から法人全体で様式を統一し、事業所内で記入方法の徹底をした結果、書きやすく、見やすい書類となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 介護記録では短期目標を個別に記入し、日中帯は短期目標の事を詳しく記載するよう取り組んでいる。異変があれば、申し送りをして共有するようにもしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 療養マッサージの利用。訪問看護の利用。経済的変化により生活保護の支給を受けるようになった方への支援を行なっている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域資源を活かす事があまり出来ていない為、ボランティアの受け入れ、小学生の訪問など地域との交流を少しずつ多く行っていきたいと考えている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 入所時に話し合い、家族の希望する納得いくかかりつけ医に受 診している。遠方の受診には家族の協力を得て対応している。 耳鼻科や眼科の受診、歯医者は往診に来て頂き対応している。	
			(外部評価) 利用者や家族の希望で母体診療所がかかりつけ医となってい る。月2回の往診や急変時などの対応ができる体制が整ってい る。専門医の受診も職員の同行や家族の協力を得て、安心して 継続できるよう支援している。職員同行にて通院した場合は 、受診内容を担当職員から家族へ報告している。また、訪問 マッサージの受け入れもしている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 利用者さんの体調の気づきは、医療連携看護師に申し送りをして いる。看護師は、在宅療養支援診療所の看護師、または医師 に上申して、受診や看護を受けている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 定期的在宅療養支援診療所かかりつけの医師の往診がある。 入院時は情報提供書を作成し情報を伝えやすいようにしてい る。入院中は、様子を伺い、病院の看護師と連絡して、早めに 施設へ復帰出来るよう準備している。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化や終末期の指針について入居時に説明している。重度化 した時、看取りについて家族、主治医、事業所で話し合い、方 針を決めている。	
			(外部評価) 「重度化及び看取りに関する指針」を作成し、入居時に利用者 や家族に説明している。看取りの経験があり、状況の変化に応 じ、利用者や家族等の意向をその都度確認をしながら、思いを 受け止め納得のいく穏やかな最期を迎えられるよう取り組んで いる。また、職員の不安解消に努めていくことも大切だと考 え、勉強会や外部研修の参加を予定し、知識を広げ自信につな がるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 今年度、消防署主催の合同救命講習を全員が参加する予定である。又、別にある8月の外部の研修にも数名参加するようにも考えている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防署の指導のもと年2回(10月・3月)、火災避難訓練を実施。3月の火災避難訓練では、自動通報装置に地域の方の電話番号を登録し一緒に訓練にも参加して頂き動作の確認をする事も出来た。又、去年7月にあった地域の自主防災組織の話し合いに管理者、ホーム長が参加した。その際、地元消防団に避難訓練参加のお願いをし、日程があれば参加して頂き助言を頂けるように話しをしたが、日程が合わずまだ実施出来ていない為、実施出来るように考慮していきたいと思う。 (外部評価) 3月の避難訓練は消防署立会いのもと、夜間帯で出火元を1階奥の多目的トイレに想定して行った。同時に消火器の使い方も実施した。事前に消防団と近隣住民へ参加の案内を行ったものの2名の参加であったため、今後も継続的に案内をしていく予定である。消防署からの指導もあり、職員の防災意識はより高くなっている。また、地元消防団の話し合いに参加し、11月予定の炊き出しに参加予定である。備蓄品は水・乾パンを3日分準備をしている。	事業所は災害に対する危機感が高く、地域の消防団や地元住民からの協力が必要不可欠だと考え避難訓練への参加も徐々に得られている。今後は事業所裏の山からの土砂災害対策も含め、様々な災害時の訓練や対策を消防署や地域と話し合い、協力体制の構築に取り組んで欲しい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人ひとりの認知症の進行にあった介護をしている。プライバシーの確保の為、オムツ介助時にはカーテンを閉めて実施している。他者に気付かれないようにさりげなくトイレ誘導も行っている。 (外部評価) 職員は、利用者一人ひとりの人格を尊重し、目線を合わせた対応を心がけ、利用者の名前呼び方にも配慮している。日常生活の中で、利用者への対応方法で気になったことは、その都度注意し合っている。また、入居していることを知られたくない利用者もあり、写真掲載しないよう配慮するなど、利用者の気持ちを大切にケアを実践できるように取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 出来るだけ本人に声掛けをし希望を聞いているが、認知症の進行により自己決定出来ない、考えられない利用者が増えている。動作などに対してなるべく分かりやすいように説明し、自分で決める場面を作るように工夫している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) なるべく一人ひとりのペースに合った介護をしているが、忙しい時には1人ひとりのペースに合わず事が出来ない時がある。自分のペースで過ごされる方が何人かいる為、出来るだけなるべく希望に合わせるよう支援していきたい。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 定期的に馴染みのある美容室から散髪に来て頂いている。外出する際には、お出かけ用の衣類の支援をしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食べやすいような大きさに切って、一人ひとりの盛り付けを行っている。利用者で好きな方には、もやしの根っことりや食器拭き、盛り付け等のお手伝いをして頂いている。 (外部評価) 献立は系列のグループホームが交替で作成している。職員と利用者が一緒にテーブルを囲み、穏やかな雰囲気の中で食事をしている。介助の必要な利用者には、職員が横に座り利用者のペースに合わせて援助がなされている。調査日当日は土用丑の日にちなんで、うな重とデザートにスイカが振る舞われるなど、季節を感じながら食事に楽しみが持てるよう工夫されている。用意や片付けなど利用者と職員と一緒にやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの食事量、水分量が分かるように記録している。食事量の減少している人には、メイバランスなどの栄養補助食品を飲まれている。1日の水分量を1000ccとして少しでも多く飲んで頂けるように水分量が少ない方には牛乳、野菜ジュースなど個別で好みの物を購入し、脱水にならないように注意している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、居室の洗面台に誘導し口腔ケアを行っている。本人が出来る事はやって頂き、声掛け、見守りを徹底している。全介助が必要な方には、口腔ケア用ティッシュ使用での口腔ケアやポリデントも週1回行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) トイレへの声掛けをこまめに行い排泄の失敗を減らすように取り組んでいる。それぞれの排泄にあった、尿取り、リハビリパンツを使用しなるべくストレスにならないように支援している。	
			(外部評価) できるだけ日中はトイレでの排泄支援を行っている。排泄チェック表を用いて、一人ひとりのリズムやタイミングを把握するよう努めている。リハビリパンツを使用したり夜間のみポータブルトイレを使用したりするなど、利用者の状態に合わせて自立を促している。また、布パンツを使用する利用者もあり、状態に合わせた用品の工夫を行いながら、一人ひとりの思いをくみ取った支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) リハビリ体操を行ない運動不足の改善、腸の動きの活性化を促進している。水分を多く摂取する様にも気を付けている。便秘の期間がすぐに分かるように新しく排便チェック表も作成した。又、やむを得ない場合は医師の指示により下剤の処方をして頂いている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 全員の利用者が介助が必要な為、状態や体調に合わせて入浴している。出来るだけ入る時間、お湯の温度等、本人の好みに対応し、入浴が楽しみになるように努めている。	
			(外部評価) 入浴は週2、3回を基本とし支援している。利用者の希望に沿って、毎日入浴ができるように準備されている。利用者の身体状況に応じて滑り止めマットやシャワーチェアの使用、体調不良時には清拭を行うなど、気持ちよく安全に入浴ができるよう支援されている。入浴の苦手な利用者には、声かけやタイミングを工夫するなどの支援をしている。冬至にはゆず湯を用意し大変喜ばれた。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 個々のペースに応じて、睡眠の援助を行なっている。体調のすぐれない時は、自室で休んで頂いている。昼夜逆転傾向の利用者には、日中楽しみが持てるよう支援し、夜間良眠出来るよう取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 月に1回職員が講師となり勉強会を行っており、去年の12月に薬の副作用等の勉強会を行なった。薬の変更時は申し送りに記入し、職員が周知徹底し誤薬しないように取り組んでいる。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 食器拭き、洗濯物、タオルたたみ、新聞折りなど役割をもっている。季節の行事(花見・七夕など)を取り入れたり、外出の計画を立てている。外への買物は全員参加が困難な為、提携している商店に施設に訪問して頂き定期的に出張買い物を行ない楽しまれている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 認知症が進行し、希望に沿っての外出は少なくなっているが、職員が季節に応じての外出を計画し、なるべく外出出来るように支援している。家族との外出機会は少ない。 (外部評価) 利用者の重度化により、外出することが難しくなっているが、事業所周りの散歩や外気浴に出かけ肱川や山の緑を眺めたり、事業所裏の近隣住民と挨拶を交わすなど気分転換をしている。また、事業所と関わりのある業者の協力を得て、買い物出張サービスを行うようになり大好評となっている。月に1~2回程度の外出計画を立て実践している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金に対する興味も薄れ、所持も出来ない人が多い。買物に出かけた時は、出来る方には財布を渡し自分で支払うように支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 以前は手紙を書く利用者がいたが、現在は書く人がおらず手紙のやりとりはない。電話の取り次ぎはして電話のやり取りは行なっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 外の光が射してくれば、カーテンを閉めている。部屋の明るさ、温度等は利用者に合わせている。職員の家から、季節の花を持ってきて飾ると喜ばれる利用者がある。テレビの音もうるさくないよう音量に気を付けている。	
			(外部評価) 窓から暖かい光が差し込むリビングは、明るく落ち着いた雰囲気の空間となっている。対面キッチンから全体を見渡すことができ、壁には利用者の作った作品などが飾られている。利用者はテレビを見たり、おしゃべりを楽しんだり、思い思いの場所で穏やかな時間を過ごされている。また、畳スペースでは洗濯物たたみをする利用者もいる。畳スペースは時折、舞台にもなり、利用者の笑顔が増えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 気の合う者同士が近くで過ごせるように席等を考えている。難聴の利用者は、職員が間に入って会話をするよう対応している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 家族さんが馴染みのある物を自由に持ってきたり、持って帰ったりしている。テレビや、鏡、家族の写真を飾ったりしている。破ったり、持ってまわったりするために、何も置くことが出来ない方もいる為注意もしている。	
			(外部評価) 居室には、ベッド、タンス、洗面台、エアコンが備え付けとなっている。椅子やクッション、利用者が作った壁飾りや家族の写真を飾るなど、それぞれに居心地よく過ごせるような部屋づくりがされている。また、居室の名前にはユニットごとに1階は滝、2階は音楽を取り入れた名前が付けられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) トイレの場所がわからない人には、便所と表示している。台所で職員が見守りしながら、洗濯物干し、たたみ等を利用者と一緒に取り組んでいる。	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3873600377
法人名	株式会社 新風会
事業所名	グループホーム白雲
所在地	愛媛県大洲市白滝甲669番地4
自己評価作成日	平成28年6月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 28 年 7 月 22 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設の大きな窓から、雄大に流れる肱川を眺めることができ、四季折々に姿を変える山々や、敷地内の桜や紅葉が季節を感じさせてくれます。
年一回の茶話会を通し、地元の方々に白雲の存在を知っていただくようにしている。認知症とはどんな病気なのか、会話を持って頂いて理解をいただくようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然豊かな環境にある事業所は、景勝白滝公園近くの高台に位置し、眼下に清流肱川を望み、年中爽やかな風に包まれ、四季折々の風情を感じることができる。広々とした敷地に建つ洋館風の建物で、開設12年目を迎える。職員の異動が多い中、昨年は管理者の異動があり、管理者は職員とのコミュニケーションを大切に前任者の思いを継続するよう努めている。利用者の重度化も進んでいるが、職員と共に利用者がのんびりと穏やかに過ごせるよう熱心に取り組んでいる。また職員も日々の業務に追われる中、利用者一人ひとりの思いや意向を大切にケアに取り組んでいる。事業所と母体の診療所は協力体制が取れており、24時間体制で利用者の健康管理や緊急時には迅速に対応できるなど、利用者は安心してサービスを利用することができる。地域とのつながりを大切に笑顔あふれる暮らしが継続できるような事業所を目指し日々取り組んでいる。今後、さらなる発展が期待できる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム白雲

(ユニット名) 第2ユニット

記入者(管理者)

氏名 山上真弘(中家由美子)

評価完了日

平成28年6月14日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 事業所の理念にも「ゆっくり、ゆったり、笑顔ある生活」を目指して、その人らしく生活できるよう個々にあった介護を行える様ケアプランを作成し、支援出来るよう努力している。</p> <p>(外部評価) 法人全体の理念とは別に事業所独自の理念が事業所内に掲示されている。月1回の業務カンファレンスにて理念の共有を行い、実践できるように意識づけしている。また、どんなに多忙な時でも、常に理念に沿いサービスの質の向上に努め、利用者一人ひとりに合ったケアに組んでいる。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 年1回地域の方を交え行事等(茶話会)を行い、施設の理解をしていただき、職員の顔等覚えてもらっている。地元小学生との交流も福祉体験を通し繋がりを深めている。地域のお祭り等にも少しだが参加している(お神輿見学)地元の美容室利用、お店の利用等していたが、今現在、お店は閉店となり利用出来ていない。</p> <p>(外部評価) 5月に白雲茶屋を開催し、利用者家族や地域の方の参加があり、施設見学やフラダンスのボランティアを招き、大変喜ばれた。また、地域の小学生や中学生との交流の場は多く、福祉体験の受け入れやクリスマス会を一緒に行なうなど日常的な交流がある。カラオケ、フルートの演奏会、ギターの弾き語りなどのボランティアの訪問もある。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 年一回地域に人を招き、茶話会を開いている。体操など一緒に行い身体面に役立つ事を実践している。茶話会にて、認知症への相談や不安なことを聞くことにより、認知症の理解を深めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議は2か月に1回行っている。 行事報告、生活状況を報告し、評価、意見、要望、助言をいただいている。出された意見はサービスの向上に反映できるよう努めている。動画による行事説明を行っている。	
			(外部評価) 市福祉課、区長、民生委員、利用者、家族と幅広い参加者によって運営推進会議がとり行われている。他事業所の参加が毎回あり貴重な意見や情報を聞くことができている。昨年からスライドショーを使って活動報告をしたところ、参加者に解かりやすいと好評を得ている。また、地区サロンへの参加の誘いがあり、現在前向きに検討している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) ケアプランを提出して、助言をいただいている。 市のサービス担当者会議に管理者が参加し連絡を密にしている。	
			(外部評価) 市福祉課担当者は毎回運営推進会議に参加し、事業所の利用状況や取組みについて報告し意見交換している。3か月に1度行われる市グループホーム連絡会では様々な情報交換をしている。また、困難事例や勉強会などの個別相談にも応じてもらえるなど、協力関係は良好である。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 玄関は施錠していない。 身体拘束廃止のためのマニュアルを作成し、全てのスタッフが目を通している。 研修にも参加し、情報を共有出来るように施設内で勉強会を開いている。	
			(外部評価) 職員が利用者に寄り添い見守ることで、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。身体拘束のマニュアルを作成し、ミーティングなどで身体拘束をしないケアについて常に話し合い、職員は正しい理解をして実践している。言葉での拘束についても職員全員で意識しながら適切な対応をするよう心がけている。夜間のみ安全面に配慮し玄関の施錠をしている。勉強会を12月に予定している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 市や、県の研修会に積極的に参加できるようにしている。虐待防止について再度勉強会を行う必要性が出てきている。言葉の暴力については個々が気を付けながら利用者に接している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 事業所内の勉強会でも権利擁護について研修会を行い勉強する機会を設け、制度自体の理解を深めている。 以前は制度利用されていた方がおられたが、2Fは現在は利用されている方はいない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時、契約変更時、解約時の際家族の方がわかりやすいようにその都度質問に答えながら行っている。重要事項説明書に沿っても説明している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 要望や苦情の申し出窓口を設けている。意見を出しやすいよう意見箱を設置したり、面会時に家族からの要望を聞いている。家族の要望が職員全員に伝わるようにしている。 運営推進会議での意見交換をしている。 (外部評価) 面会時や電話連絡を活用して、利用者や家族等の意見や要望を聞くように努めている。別に家族会を開催し正直な意見を聞くことができている。今年は11月に予定している。出された意見は、職員間で話し合い、実現できるように取り組んでいる。中でも、利用者から「買物に行きたい」との要望が多く、叶えたと大変喜ばれている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 月に1回の業務カンファレンスで職員の意見を聞いて反映している。管理者会議や、副部長訪問時にも意見を取り上げている。今年度から相談役が就任され職員の意見を聞く場を設けて反映できるようにしている。</p> <p>(外部評価) 管理者は、共に介護に携わっていて職員と話し合う時間や場面は多く、職員は日々の支援の中で気がついたことや思いを管理者に伝えることができる環境が整っている。事業所で解決できないことは本部に報告し対応している。また、業務カンファレンスでは、勉強会や行事の反省、次行事の打ち合わせなど、職員同士での活発な意見交換のできる有意義な会議となっている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 職員の向上心や実績を踏まえて研修会の参加、昇進の機会を設けている。時間外手当、産休や育児休暇が取れ、働きやすい環境が整えられている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 毎年、研修は順番に職員が参加できるようにしている。参加職員は、勉強会で発表し、他職員も理解する様、資料に目を通してしている。介護実務者研修を受講出来るよう、勤務時間の調整への支援を行っている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 管理者は市の、サービス担当者会議や他のGH運営推進会議へ参加し情報交換を行っている。またグループホーム見学会に職員が参加し、交流の機会を設けている。</p>	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 事前調査に伺い、本人の不安が少しでも、軽減できるように、話を聞く体制をとっている。入所前には、施設内の見学等を行い生活の雰囲気を見ていただき不安改善に努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族様が納得されるまで説明を行い、安心して頂ける様に取り組んでいる。事前調査に同席して頂きなるべく家族様の要望に応えられるようにしっかり耳を傾けている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人、家族の話をよく聞いて、担当のケアマネジャーとも相談しながら、アセスメント表などを利用し、適切なサービスを検討している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) できることを見つけて、見守ったり、職員と一緒に作業を行っている。日々の生活を通して、お互い支え合っていけるような関係作りに努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族面会時にはコミュニケーションを大切に、協力しながら施設生活が継続できるよう関わっている。 日常生活については毎月の新聞の送付、電話や手紙で知らせている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 知人などの訪問にも快く受け入れ体制を取っている。 関係が途切れない様になっている。 故郷への外出行事など行っていたが認知症進行に伴い現在は外出する機会が減ってきている。 (外部評価) 家族や友人の方の面会があり、部屋で会話をしている。馴染みの美容室に頼みたいとのことで、美容室に相談したところ来てもらうことができ大変喜ばれた事例もある。また、地元の敬老会へ出席したり、家族の協力を得て外出したりと、馴染みの関係が途切れないような支援に努めている。現在、地区サロンから参加の案内が届いており、前向きに検討中である。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 相性の良し悪しを考え、席の配置を決めている。 難聴の利用者には、間に入って会話をしている。 役割分担を決めて、協力して生活しており、利用者様同士が支え合う場面も見られる。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所などの理由で関係を断ち切ることはなく、ホーム外でも会話をさせて頂いている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日常生活の関わりの中で、思いをくみ取るようにしている。日頃の会話や、スキンシップ、行動、表情から察している。介護記録に残して、カンファレンスで検討している。面会時に家族様に話を聞き本人の意向に沿うよう支援方法を検討している (外部評価) 職員は利用者一人ひとりに向き合いながら、日常の表情や態度から気持ちを汲み取り、思いや意向を把握するよう努めている。「俳句を作りたい」という思いを聞き、一緒に俳句をつくり壁に掲載したところ大変喜ばれた。把握が困難な利用者には表情や行動を見落とさないようにしたり、生活歴や家族から思いを聞き把握するよう努めている。また、利用者自身が自己決定できるような声かけを行うなど対応方法にも配慮している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 訪問調査時のアセスメント、情報提供書から職員全員がこれまでの暮らしについて把握するよう努めている。本人、家族からも再度よく聞いて、残存機能を把握しながら、その人らしい生活が出来るように支援している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりの一日の生活の流れを把握している。一緒にすることで、出来る力、分かる力の状態変化に気を付けている。経過観察記録、介護記録に記入し毎日申し送りを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 利用者、家族の意向の確認を行い、月に1回カンファレンスで課題を話し合っている。利用者担当職員、計画作成担当者が作成している。アセスメント表を活用し、ケア改善に取り組んでいる。利用者の状態が変化した時は再度アセスメントを取り、新しい介護計画を作成し、ケアに取り組んでいる。	
			(外部評価) 利用者や家族の思いや意向を反映した介護計画を作成している。利用者担当制を設け、職員は利用者の生活状況や身体状況を把握し、月に1回ケア会議を行い、必要に応じて計画の見直しも行っている。今年5月から法人全体で様式を統一し、事業所内で記入方法の徹底をした結果、書きやすく、見やすい書類となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別の介護記録に利用者様の様子、日々の変った事、気づきを記入、記録し職員がスムーズに連携できるよう申し送りノート等も活用している。細かな情報を共有しカンファレンスで見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人、家族の希望、医師の同意の下、療養マッサージを導入している。今現在は2Fは利用していない。希望により、地元美容室の利用が出来る様支援しているが認知症進行により今現在は利用出来ない。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 以前は地元商店への買い物、美容院の利用など行っていたが、今現在は利用していない。 教育機関との交流（地元小学校、中学校）。 茶話会を開催し地元の方との交流などを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 家族の同意の上、神南診療所の医師の月2回の往診 を受けている。本人の希望、家族の希望する病院があれば受診する ようにしている。また必要に応じた専門的な科の診察を受ける様家 族協力も得られている。 (外部評価) 利用者や家族の希望で母体診療所がかかりつけ医となっている。月 2回の往診や急変時などの対応ができる体制が整っている。専門医 の受診も職員の同行や家族の協力を得て、安心して継続できるよう 支援している。職員同行にて通院した場合には、受診内容を担当職 員から家族へ報告している。また、訪問マッサージの受け入れもし ている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 健康状態の観察を毎日行い経過記録している。異常が見られる場合 は医療連携看護師に連絡し、状態を報告指示を仰いでいる。必要時 は訪問看護利用の受け入れを行う体制を取っている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には、情報提供書を作成し、本人の状態を共有できるように している。お見舞いに行き、その都度主治医に経過を伺い状態把握 に努めている。入院中の洗濯も行っており、入退院の際には、送迎 も行うように体制をとっている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) ターミナルケアについて、家族の希望をアンケートし終末期のケア の在り方を把握に努めている。個々の緊急時の対応については家族 と話し合いケアについて理解を深めている。 (外部評価) 「重度化及び看取りに関する指針」を作成し、入居時に利用者や家 族に説明している。看取りの経験があり、状況の変化に応じ、利用 者や家族等の意向をその都度確認をしながら、思いを受け止め納得 のいく穏やかな最期を迎えられるよう取り組んでいる。また、職員 の不安解消に努めていくことも大切だと考え、勉強会や外部研修の 参加を予定し、知識を広げ自信につながるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 今年度、会社全体で予定しており職員全員が参加予定である。 急変時、事故発生時対応マニュアル作成して対応できるようにしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 火災、地震を想定して防災訓練を行っている。 災害時連絡網に、地域の消防団や、近郊の方にも協力依頼をしている。今年度は地域の方にも自動通報装置に登録させていただき、訓練にてホームに到着する時間などを把握するため、協力をいただいた。 (外部評価) 3月の避難訓練は消防署立会いのもと、夜間帯で出火元を1階奥の多目的トイレに想定して行った。同時に消火器の使い方も実施した。事前に消防団と近隣住民へ参加の案内を行ったものの2名の参加であったため、今後も継続的に案内をしていく予定である。消防署からの指導もあり、職員の防災意識はより高くなっている。また、地元消防団の話し合いに参加し、11月予定の炊き出しに参加予定である。備蓄品は水・乾パンを3日分準備をしている。	事業所は災害に対する危機感が高く、地域の消防団や地元住民からの協力が必要不可欠だと考え避難訓練への参加も徐々に得られている。今後は事業所裏の山からの土砂災害対策も含め、様々な災害時の訓練や対策を消防署や地域と話し合い、協力体制の構築に取り組んで欲しい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者様一人ひとりのそれぞれの性格や生活環境、それぞれの人格を理解し、職員間で話し合いながら個々のプライバシーを損ねない声掛けに努めている。居室内にカーテンを設置し、着替えなど利用者のプライバシーや羞恥心に配慮した支援を行っている。希望に応じて入浴時など、同性介助の配慮も行っている。 (外部評価) 職員は、利用者一人ひとりの人格を尊重し、目線を合わせた対応を心がけ、利用者の名前での呼び方にも配慮している。日常生活の中で、利用者への対応方法で気になったことは、その都度注意し合っている。また、入居していることを知られたくない利用者もおり、写真掲載しないよう配慮するなど、利用者の気持ちを大切にケアを実践できるように取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 買い物では、自分で選んだり、一緒に選んでいる。 入浴時の衣服の用意、タンスの中は選びやすいようにしている。自己決定が困難な方は、会話やコミュニケーションを取りながら、自己決定が出来る様にしていたが、認知症進行により、難しくなっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりの状態を確認しながら、生活のリズムを大切に、自分のペースで過ごして頂いている。 食べたい物、出かけたい所等、会話の中で聞き出しているが認知症進行に伴い難しくなっている。無理強いほしない様にして、笑顔の声掛け、見守りをしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 出張美容院の利用で髪型をおしゃれにすることで、気分転換をしている。外出や更衣する時は一緒に服を選んでる。 季節に見合った外出着で出かけるようにしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 一人ひとりの出来ることにあわせて、食材を切ったり洗ったり、食器拭きを手伝って頂いている。 旬の食材を使用した献立を作るようにしている。 誕生会や行事食等、利用者さんの好みの物を聞いて作っている。	
			(外部評価) 献立は系列のグループホームが交替で作成している。職員と利用者が一緒にテーブルを囲み、穏やかな雰囲気の中で食事をしている。 介助の必要な利用者には、職員が横に座り利用者のペースに合わせて援助がなされている。調査日当日は土用丑の日にちなんで、うな重とデザートにスイカが振る舞われるなど、季節を感じながら食事に楽しみが持てるよう工夫されている。用意や片付けなど利用者と職員が一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 一日の食事量、水分摂取量を一目で分かるように記録している。個々の食べる量を把握して、提供の仕方にも気を付けている。毎月の体重測定、BMIの記入。 水分摂取量の少ない人には、お茶以外の飲み物をすすめたり、果物等を出している。 家族理解のもと栄養補助食品なども利用している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後は歯磨きの声掛けをして、見守りの必要な人介助のいる人等、職員で分担して、個々に応じた歯磨き用ティッシュを使用し、口腔ケアをしている。 週1回、ポリドントもしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人ひとりの排泄のタイミングの把握により、適切なトイレ誘導を行っている。 リハビリパンツや個々に合った排泄用品を使用し、尿意のない方への対応も行っている。	
			(外部評価) できるだけ日中はトイレでの排泄支援を行っている。排泄チェック表を用いて、一人ひとりのリズムやタイミングを把握するよう努めている。リハビリパンツを使用したり夜間のみポータブルトイレを使用したりするなど、利用者の状態に合わせて自立を促している。また、布パンツを使用する利用者もあり、状態に合わせた用品の工夫を行いながら、一人ひとりの思いをくみ取った支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排便の状況を記録、把握しており食後や移動時にトイレ誘導を行い排泄を促している。水分不足にならない様、好みのもので水分摂取して頂いている。ケアプランに運動の目標を設定し無理なく体を動かせるようテレビ体操などで、楽しく行える様に工夫もしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 個々に合わせた温度設定や、毎日入浴日としているが業務の都合で本人が望まれる時間、日に入浴できない時がある。入浴チェック表で確認し、最低週2回以上入浴できるよう支援している。	
			(外部評価) 入浴は週2、3回を基本とし支援している。利用者の希望に沿って、毎日入浴ができるように準備されている。利用者の身体状況に応じて滑り止めマットやシャワーチェアの使用、体調不良時には清拭を行うなど、気持ちよく安全に入浴ができるよう支援されている。入浴の苦手な利用者には、声かけやタイミングを工夫するなどの支援をしている。冬至にはゆず湯を用意し大変喜ばれた。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 空調を使用することにより、個々の居室を適温に保っている。食後等も体調に合わせて自室での休憩を促している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 朝、昼、夕、眠前と薬を分けて個々に分かるように管理している。ダブルチェックにより服用前は名前の確認、日付の確認等行いながら、一人ひとり手渡しや、口に持っていくことで誤薬予防に努めている。勉強会を開き薬の効能、副作用等把握に努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 洗濯物をたたんだり、食材の下ごしらえなど出来る事を無理の無い範囲で協力し合っている。レクリエーションの機会を作り、気分転換を図っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 月に1回から2回程度外出の予定を立て本人の意向にそった外出先を選んでいる。その他の外出では家族様の協力により、実現されている。個々に合わせた外出計画実施に努めている。	
			(外部評価) 利用者の重度化により、外出することが難しくなっているが、事業所周りの散歩や外気浴に出かけ肱川や山の緑を眺めたり、事業所裏の近隣住民と挨拶を交わすなど気分転換をしている。また、事業所と関わりのある業者の協力を得て、買い物出張サービスを行うようになり大好評となっている。月に1～2回程度の外出計画を立て実践している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 財布は施設管理で行っている。買い物の行事等にて本人の希望するものを買ってもらっているが、高額なものは家族協力のもと購入してもらっている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者が望む時は、電話の取り次ぎを行う支援等行っていたが現在は認知症進行に伴い、電話等の取次はあまり見られない状態である。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 建物は家庭的な作りである。室温調整により快適に過ごせるように配慮している。 季節の花を飾ったり安らげる空間作りを目指している。</p> <p>(外部評価) 窓から暖かい光が差し込むリビングは、明るく落ち着いた雰囲気の空間となっている。対面キッチンから全体を見渡すことができ、壁には利用者の作った作品などが飾られている。利用者はテレビを見たり、おしゃべりを楽しんだり、思い思いの場所で穏やかな時間を過ごされている。また、畳スペースでは洗濯物たたみをする利用者もいる。畳スペースは時折、舞台にもなり、利用者の笑顔が増えている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 畳空間がある。個人個人の椅子を置き、利用者同士が会話できる空間を作っている。大きな窓からは眺めが良く、日向ぼっこをしたり、ゆっくり、ゆったり過ごせる工夫をしている。 個室で独りになれる。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 使い慣れたもの、馴染みのものなどを自室に置かれ、安心して生活出来る様工夫している。本人の好みのもを置けるようにしている。</p> <p>(外部評価) 居室には、ベッド、タンス、洗面台、エアコンが備え付けとなっている。椅子やクッション、利用者が作った壁飾りや家族の写真を飾るなど、それぞれに居心地よく過ごせるような部屋づくりがされている。また、居室の名前にはユニットごとに1階は滝、2階は音楽を取り入れた名前が付けられている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 室内は段差がなく、手すり等を利用して安全に生活できるようにしている。個室の入り口には、すぐに分かるように写真を貼ったり、名前をつけて自分の部屋だと分かるように工夫している。</p>	